



2022年 5月 No. 68  
 編集・発行 済生会宇都宮乳児院  
 〒321-0974 宇都宮市竹林町 945-1  
 ☎028-626-5511 (代)

ごあいさつ

保育課長 佐藤 幸子

5月に入り、木々の緑もだんだんと色濃くなってきました。日頃より地域の皆さまには多大なご支援とご協力を賜り深く感謝申し上げます。

新型コロナはまだ先が見えませんが、早く収束するのを願っています。このような環境下でも子どもは元気に過ごしております。今後も感染予防対策に万全を期すよう取り組んでまいります。子どもたちの健全な成長と将来的な自立のために一人ひとりと愛着、信頼関係を築いて発達支援、養育支援をし、社会の多様なニーズや時代の変化に対応できるように努力していきたいと思っております。



乳幼児期の食事について

栄養士 三村 香織

乳幼児の食に携わり十数年が経ちました。子どもたちの成長過程を近くで実感するとともに、食を通して発達の一助となれていることにやりがいを感じる日々です。乳幼児期の食事作りは発達の土台となるため栄養面、調理法、アレルギー除去食の対応などさまざまな注意と工夫が必要となります。そして現在、新型コロナウイルスの影響により入所児も外出が困難になり、自分で食品を選択したり食材に触れる機会が少なくなりました。そのため日々の食事が子どもたちにとっての楽しみになるよう努め、食の楽しさ大切さを伝えていきたいです。



現代のように、医療が発達していなかった時代では幼い子の死亡率が高く「7歳までは神の子」と言われていました。言葉を理解し始める3歳頃から乳歯の生え変わりがある7歳頃までは、成長に伴って、特に病気になりやすい年齢であると考えられていたため、子どもの健やかな成長をお祈りするための行事として七五三の儀式が行われたのです。

